

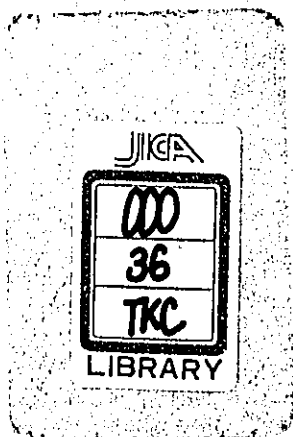
神奈川県国際水産研修センター

概 要

平成3年度

国際協力事業団

神奈川県国際水産研修センター



JICA LIBRARY



1090398(7)

22344

国際協力事業団

22344

目 次

I	国際協力事業団の概要	1
II	研修員受入れ事業の概要	1
III	神奈川国際水産研修センターの概要	2
	1. 沿革	2
	2. 施設概要	2
	3. 組織と業務	3
	① 組織	3
	② 業務	3
	4. 平成3年度事業計画	4
IV	事業の概要	6
	1. 集団コース概要	6
	2. 個別研修員の受入れ	8
	3. 日本語研修	8
	4. 福利厚生・地域交流等	8
V	研修員受入れ実績	9
	1. 平成2年度コース別研修員名簿	9
	2. 平成2年度個別研修員受入れ実績	14
	3. 地域別年度別研修員受入れ実績	16
	4. コース別年度別研修員受入れ実績	16
	(参考) 個別コース研修員受入れ実績	16
	5. 国別研修員受入れ実績	17
	6. 地域別研修員受入れ状況	18
	参考資料	
	1. 国際協力事業団認可予算の推移	19
	2. わが国のODA事業予算(政府全体)	20
	3. DAC主要国のODA実績の推移(支出純額ベース)	21
	4. 形態別内訳と技術協力の比率(1987)	22
	神奈川国際水産研修センター平面図	23
	神奈川国際水産研修センター案内図	24

I 国際協力事業団の概要

国際協力事業団（英文名－Japan International Cooperation Agency：略称JICA）は、開発途上にある国々の経済、社会の発展に寄与し、国際協力の促進を図るため、政府ベースの多岐に亘る国際協力事業を、一元的に実施するために昭和49年8月1日、国際協力事業団法（昭和49年法律第62号）に基づいて設立された特殊法人です。

当事業団は、ODA（政府開発援助）の内の二国間贈与の部門を主体的に担っており、開発途上国の経済および社会の発展に寄与するため、次の事業を実施しています。

1. 政府ベースによる技術協力

- ① 研修員受入事業
- ② 専門家派遣事業
- ③ 機材供与事業
- ④ プロジェクト方式技術協力事業（前述の研修員受入、専門家派遣、機材供与の3事業を一つのプロジェクトの中に有機的に組合せた協力）
- ⑤ 開発調査事業
- ⑥ その他の技術協力関係事業（通産省からの委託による資源開発協力調査等、外務大臣の認可を受けて行う協力）

2. 青年海外協力隊事業

3. 技術協力のための人材の養成及び確保

4. 無償資金協力促進事業

5. 開発協力事業

6. 移住事業

II 研修員受入れ事業の概要

開発途上国の中級及び高級技術者を、その国政府の要請によりわが国に受入れ、各分野の技術の研修、新知識の習得あるいは再訓練を行い、開発途上国の経済的、社会的発展に寄与し、併せて日本の産業、文化を紹介し彼我の友好親善に役立てることを目的としています。これらの受入に要する費用は、原則としてわが国が負担します。研修の方式は、わが国であらかじめ設定した研修プログラムに沿って各国からの参加希望者をつのる集団研修と各国の独自の要請に基づき研修させる個別研修に分けられます。研修員の資格は、研修コースの内容によって異なりますが、各国において経済・社会開発の中心となる人々を対象としているため、政府機関の中堅職員が多い。

受入研修員は、セミナー参加者、視察・見学者、研究者、技術・技能研修者等に大別され、事業団の研修機関、政府の試験研究機関、大学、民間の企業、訓練所等の各機関において研修プログラムに沿って研修を行っています。

当事業団は、これら研修の計画立案、その他研修管理全般の仕事を受けもつとともに、国際研修センターを設置・運営し、更にこれらの研修管理の一環として研修員に対する日本語教育の実施、帰国研修員へのアフターケア活動等を進めています。

開発途上国から「国づくり」の核となる技術者や行政官等を研修のために受入れる研修員受入れ業務は、技術協力の主要な柱の一つであり、研修員は、それぞれの国の国づくりに必要な技術を学び、自国の経済、社会開発において積極的な役割を果たすばかりでなく、日本人との交流を通じて日本の風俗・伝統・文化に親しみ、充実した成果をもって母国へ帰り、日本との友好の橋渡しとなることが大いに期待されます。

Ⅲ 神奈川国際水産研修センターの概要

1. 沿革

神奈川国際水産研修センター（英文名-Kanagawa International Fisheries Training Centre：略称KIFTC）は、昭和36年4月三浦市諏訪町に当事業団の前身の一つであった（社）アジア協会設立の三崎国際水産研修会館として発足し、昭和49年4月に神奈川国際水産研修センターと改称し現在地に移転・拡充されました。

当センターは設立当初より、水産大学、水産試験場、地元の漁業協同組合等の協力を得て、当センターにおいて研修員に対し直接指導を行う体制をとり、水産の技術指導施設と宿泊機能を兼ね備えた、日本で唯一の国際水産研修センターであります。

2. 施設概要

① 所在地：神奈川県横須賀市長井5-25-1 〒238-03

TEL. 0468-57-2251 FAX. 0468-57-2254

② 建物規模

敷地面積：3,069㎡

建築面積：1,196㎡

延床面積：2,729㎡

構造：鉄筋コンクリート4階建

③ 主要施設

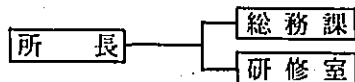
ア. 管理施設（事務室、会議室、講堂）

イ. 宿泊施設（シングルルーム33室、和室1室、食堂、ロビー、ラウンジ）

ウ. 研修施設（研修室3室、漁具製作室、養殖実験実習棟、エンジン実習室、回流水槽室、実習船2、展示ホール、図書資料室）

3. 組織と業務

① 組織



事務分掌

総務課 …… 研修員の宿泊管理、研修施設の運営管理、経理・庶務
研修員の福利厚生・生活指導

研修室 …… 研修計画・実施・評価等の業務、実習船・研修設備の管理
日本語研修、研修監理員に関する業務

② 業務

当センターでは次の業務を実施しています。

ア. 水産技術研修

年間6つの集団研修コース「沿岸漁業技術コース(期間8.5ヶ月)、漁具漁法学コース(2.5ヶ月)、漁業協同組合コース(5.5ヶ月)、養殖一般コース(5.5ヶ月)、小型漁船の船体・機関保守コース(5.5ヶ月)、水産食品加工コース(5.7ヶ月)」を直轄で実施しており、宿泊棟、実習船、講義・実習施設を有し、宿泊から技術研修まで当センターで一貫して行っています。併せて、関係機関の協力を得て個別研修コースも実施しています。

イ. オリエンテーション

日本における日常生活を快適に過ごし実りある研修とするため、研修に当たっての心得や日常生活に必要な事項等についてのオリエンテーションを来所直後1週間にわたって行います。

ウ. 日本語教育

当センターでは日本語教育を全ての研修員に対して義務づけて実施しています。目標を日常生活の助けとなる程度の会話の習得としています。希望者にはひらがな、カタカナ及び簡単な漢字の読み書きも教えることにしています。

エ. 健康管理

研修員が健康で所期の研修成果をあげるよう地元医療機関と連携して、研修員の健康管理には万全を期しています。

オ. 文化交流・レクリエーション活動

研修員の明日への活力を養うとともに、日本人との交流を通じて相互の理解を深め、研修生活が快適で思い出深い有意義なものとなるよう各種のパーティー、スポーツ大会の開催、友好団体との交流、地元伝統文化行事への参加、教育現場の見学、有志家庭へのホームビジットなど多彩なプログラムを実施しています。

カ. 研修員の生活相談

研修員から寄せられる要望や相談事の助言・指導に当たっています。

キ. 施設の運営・管理

安全でより快適な環境の維持に努めています。

ク. 青年海外協力隊派遣前技術補完研修

以上の海外からの研修員受入れ関係業務の他、水産部門（特に沿岸漁具漁法分野）の協力隊に対し、4～5ヶ月間の派遣前技術補完研修を実施しています。

4. 平成3年度事業計画

平成3年度は前年度からの継続の2コース（19名）を含め、8集団コースと40～50名の個別コースを計画しています。（詳細は別表のとおり。）

平成3年度には、兵庫インターナショナルセンターで実施していた水産食品加工コースの所掌を当センターに移管して従来の受入れ期間8ヶ月間を5.7ヶ月に短縮し、新しいカリキュラム編成で実施することとなりました。

別表

平成3年度研修コース実施計画表

平成3年4月
神奈川国際水産研修センター

№	コース名	人数	月数	始期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	終期	人月	回数	関係者	主たる受入研修機関
1	調理一般	9	2.5	90.1.7													90.6.24	22.5	12	JICA	神奈川国際水産研修センター
2	小型漁船の船体・機関保守	10	2.5	90.1.7													90.6.24	25.0	9		
	小計 (A)	19	-	-													47.5	-	-		
3	沿岸漁業技術	12	8.5	91.4.9													91.12.16	102.0	2	JICA	神奈川国際水産研修センター
4	漁業型同型各工	8	5.5	91.7.1													91.12.16	44.0	18		
5	水産食品加工	7	5.7	91.10.2													92.3.22	40.0	18		
6	漁具漁法	7	2.5	92.1.7													92.3.21	17.5	2		
7	調理一般	9	3.0	92.1.7													92.6.23	27.0	13		
8	小型漁船の船体・機関保守	7	3.0	92.1.7													92.6.23	21.0	10		
	個別(韓国)・(C/P)等	46	1.5	-													-	69.0	-	JICA	神奈川国際水産研修センター
	小計 (B)	96	-	-													-	320.5	-	-	
	合計(A)+(B)	115	-	-													-	368.0	-	-	

Ⅳ 事業の概要

1. 集団コース概要

(1) 沿岸漁業技術コース

[Coastal Fishing Technology]

本コースは日本の沿岸漁業の代表的な漁具漁法に関する基礎技術と知識を、特に実技に重点を置いて修得することを目的とし、実習船による海上実習及び漁具製作実習を中心とした研修を行なっています。

また、巾着網漁業やカゴ漁業は漁船での乗船見学実習も含まれています。

当コースの対象者は、発展途上国で漁具漁法分野の教育、指導、普及及び研究などの業務に従事している人々であり、参加する研修員には、強靱な肉体と旺盛なる学習意欲が望まれるコースです。

主な研修内容は次のとおりです。

- | | |
|--------------|-------------|
| a. 小型定置網漁業 | f. 各種釣漁業 |
| b. 刺網漁業 | g. モデル網水槽実験 |
| c. 小型トロール網漁業 | h. 各種漁具製作実習 |
| d. 巾着網漁業 | i. 漁業関連一般講義 |
| e. 延縄・立縄漁業 | |

(2) 漁具漁法学コース

[Fishing Science and Technology]

本コースは発展途上国において漁具漁法に関する研究、教育、技術開発等により、漁業の改良普及に従事している人々に、より、効果的に漁具を設計製作できる科学的な知識及び技術を修得させることを目的としています。

主にトロール、刺網漁具を教材として、漁具の材料、設計・製作、漁法と、漁具の物理学的特性、漁具に対する魚群の行動等を研修します。

また、漁具漁法改良に必要な関連分野の一般知識も合わせて修得します。

主な研修内容は次のとおりです。

- | | | |
|-----------|---------------|-------------|
| a. 漁具材料学 | f. 魚群行動学実験 | k. 漁獲物処理概論 |
| b. 漁具設計学 | g. 漁具物理学実験 | l. 漁業経営概論 |
| c. 漁具製作技術 | h. 刺網製作 | m. 漁業インフラ概論 |
| d. 漁法学 | i. モデルトロール網製作 | |
| e. 漁具材料実験 | j. 漁船概論 | |

センターの設備としては実習船、回流水槽があり、刺網操業実習、モデルトロール網の流水中の抵抗・形状測定実験に使用されています。

(3) 養殖一般コース

[General Aquaculture]

本コースは開発途上国における水産増養殖分野の研究者及び指導者に対し、当該分野の専門知識及び技術を広く修得させ、その上で、自国の養殖環境に適合した対象種の開発や、それら一連の養殖方式の体系化等、当該分野の開発に技術的見地から貢献でき得る能力を養うことを目的としています。

研修はセンターにおける講義、実習が主体ですが、現場の技術及びその体制を見聞するため日本各地の試験・研究機関や民間養殖場を見学する研修旅行も実施されます。

主な研修内容は次のとおりです。

- | | |
|----------------------------|---------|
| a. 淡水・海水養殖（甲殻類・貝類・藻類養殖を含む） | e. 魚病学 |
| b. 種苗生産・餌料生物培養 | f. 水質環境 |
| c. 魚類生理学 | g. 養殖工学 |
| d. 水族栄養学 | |

(4) 漁業協同組合コース

[Fishery Cooperatives]

日本の漁業協同組合は独自の発展を遂げて今日に至り、その組織化と経営に関する理論と実践は世界的に注目されています。本コースは、未だ自立的な漁業協同組合の制度を確立するに至らない開発途上国の漁業協同組合の指導者もしくは水産行政官に日本の漁業協同組合および水産行政の全体像を理解してもらうことを通じて、各国の協同組合運動の発展に寄与することを目的としています。

研修は講義を中心に行われ、又、一連の研修旅行では日本の漁業及び漁業協同組合の現状に接する機会が用意され、さらには、研修員は研修中に各自テーマを選択し、学習成果としてスタディレポートを提出することが義務づけられており「自分で考える」能力が要求されます。

主な研修内容は次のとおりです。

- | | |
|--------------|----------------|
| a. 協同組合原則 | e. 漁業法・組合法 |
| b. 協同組合経営 | f. 水産改良・普及事業 |
| c. 水産物流通論 | g. 漁業協同組合と資源管理 |
| d. 水産金融・信用事業 | |

(5) 小型漁船の船体・機関保守コース

[Hull and Engine Maintenance of Small Fishing Boat]

本コースは開発途上国における沿岸漁業の振興を図る上で、重要な小型漁船の船体および機関の保守・管理に関する基礎的な知識および技術の修得をし、自国における技術普及に貢献できる人材の育成を目的としています。

研修は講義の他に上記の目的にそって造船所での実習やエンジンの分解・組立等の

実習を行うので、あらかじめある程度の経験を有する者が研修員として望ましく、また、乗船機関実習等も含め船舶分野での問題解決能力及び技術を体系的に修得させることとしています。

主な研修内容は次のとおりです。

- | | |
|-------------------|-------------|
| a. 一般漁船構造・船舶設計の基礎 | e. 船用補機 |
| b. FRP 漁船構造 | f. 冷凍機の保守管理 |
| c. ディーゼル機関 | g. 船用電機 |
| d. 船外機 | |

(6) 水産食品加工コース

[Marine Food Science and Technology]

本コースは、水産資源の有効活用及び水産食品の品質・衛生管理上重要な、水産食品科学及び加工技術を習得し、自国の水産食品産業に貢献できる中堅技術者・研究者の育成を目的としています。

研修はセンター内での講義と実習のほか、実際の製造工場や検査機関での実務研修と見学も多く含まれ、理論のみならず実践的な技術の習得が図られています。

主な研修内容は次のとおりです。

- | | |
|--------------|-----------------|
| a. 水産加工原料 | e. 食品の機器分析 |
| b. 水産食品化学 | f. 練製品製造 |
| c. 水産製造学 | g. くん製品・調味加工品製造 |
| d. 魚介類の微生物検査 | |

2. 個別研修員の受入れ

当センターで永年培った受入れノウハウを活かして、個別受入れの拡大を図っております。施設見学を中心とする1日研修から、集団コースに合流させる数ヶ月間の研修まで幅広く実施しております。

3. 日本語研修

各集団コースともカリキュラムの前半において、全員を対象に集中講座(午前9時30分～午後4時)を2週間にわたって実施し、その後は夜間講座を週3回(月、水、金)各2時間(夜7時～9時)約10週間にわたって実施します。講座の最終日には日本語発表会を実施します。

4. 福利厚生・地域交流等

今年度は次の事業を実施する計画です。

- | | |
|--------------------|------|
| ア. 国際親善パーティー | 1回 |
| イ. 東京ディズニーランド見物 | 2回 |
| ウ. バレーボール大会 | 3回 |
| エ. バス旅行 | 3回 |
| オ. サッカー試合 | 1回/月 |
| カ. 地元各種団体との懇親会 | 約10回 |
| キ. ホームビジット及びホームステイ | 随時 |
| ク. 映画・VTR鑑賞会 | 随時 |

V 研修員受入れ実績

1. 平成2年度コース別研修員名簿

① 沿岸漁業技術コース：平成2年4月～12月（このコースのみ平成3年度分）

No.	NAME	COUNTRY NAME	AGE	OCCUPATION
	氏名	国名	年齢	現職
1	Mr. Joseph Ouako ジョセフ	GUINÉE ベナン	34	Animal Extension Officer, Ministry of Agriculture 農村開発組合活動者 普及員
2	Mr. Antonio Orlindo Avila de Silva アントニオ	BRAZIL ブラジル	27	Fishery Biologist (Pole & Line Fishery Development) Rio de Janeiro Fisheries Institute (FIPERJ) リオデジャネイロ水産研究所 カンポ・マグロ政策開発担当研究員
3	Mr. Luis Felipe Gomez ルイス	COLOMBIA コロンビア	24	Biologist, (Hatchery Coordinator) IDELPACIFICO IDELPACIFICO水産会社 種苗センター技師
4	Mr. Carlos Jose Penalo Lantigua ベニヤロ	DOMINICAN REPUBLIC ドミニカ	31	Counterpart, Fishery Resources Department, Ministry of Agriculture 農務省 水産資源課 (高級専門官C/P)
5	Mr. Manuel Neogo Obono マヌエル	EQUATORIAL GUINEA 赤道ギニア	31	Chief, Department of Coastal Fisheries, Direction General of Water & Fisheries, Ministry of Agriculture 農務省 水資源・水産局 沿岸漁業課 課長
6	Mr. Meseret Taya Dakele タイエ	ETHIOPIA エチオピア	33	Fisheries Development Supervision & Control Expert, Fisheries Development Department, Ministry of Agriculture 農務省 水産開発所 水産開発監督官
7	Mr. Erwin Rodolfo Marroquin Quevra エルウィン	GUATEMALA グアテマラ	32	Chief of Fishing Maritime Inspector, DITEFESCA 農牧庁 漁業技術部 主任検査官
8	Mr. Juma bin Mohammad bin Abdulla Al-Mamry ジュマ	OMAN オマーン	29	Research Assistant, Marine Science and Fisheries, Ministry of Agriculture and Fisheries 水産研究所 研究員
9	Mr. Segundo Juan Alzamora Encalada セグンド	PERU ペルー	32	Training Instructor, Paita Fisheries Training Centre, Ministry of Fishery 水産省 バイク水産研修センター 講師
10	Mr. Nelson B. Bion ネルソン	PHILIPPINES フィリピン	33	Fisheries Technician, Regional Office III, Department of Agriculture 農務省 第三地区事務所 漁業普及員
11	Mr. Ernestino Menezes dos Santos Nascimento エルネステイノ	SAD TOME & PRINCIPE サントメ・プリンシペ	28	Fisheries Inspector, Industrial Fisheries Division, Direction of Fisheries 農業漁業省 漁業局 商業漁業部 検査官
12	Mr. Hubert Jimmy Poirat ジミー	SEYCHELLES セイシェル	19	Instructor, Seychella School of Maritime Studies 海洋技術学校 教員

② 漁業協同組合コース：平成2年7月～12月

No.	NAME 氏名	NATIONALITY 国名	AGE 年齢	OCCUPATION 職 業
1	Mr. Easn Abdul-Huesain Easn Ahmed イ サ	Bahrain バハレーン	30	Fishery, Directorate of Fisheries, Ministry of Commerce & Agriculture. 農業漁工省 漁業局 漁業技官
2	Mr. Donngnon Gnitasoun ニタスン	Benin ベナン	35	Supervisor, AGUEQUES District, Ministry of Rural Development and Cooperatives. 農村開発協同組合省アグエ、ラギューン地区 農村開発責任者
3	Mr. Diego Carrillo Bedoya ディエゴ	Colombia コロンビア	43	Technical Assistant in Fishculture, Ministry of Agriculture. 農業省 養殖技官補
4	Mr. Toure Naby Laya Moussa ム サ	Guinea ギニア	32	Chief of Personnel in the Motorisation Center, Boussoura Port, Secretary of State for Fisheries. 水産局 ブスーラ港 動力化センター人事課長
5	Mr. Spona Dave Obondi デイヴ	Kenya ケニア	33	District Cooperative Officer, Lamu District, Ministry of Co-operative Development. 協同組合開発省 ラム地区 協同組合職員
6	Mr. Adeyemi Festua Sondo イエミ	Nigeria ナイジェリア	39	Chief Fisheries Officer, Lagos State Government of Nigeria, Ministry of Agriculture & Cooperatives. 農業協同組合省 ラゴス州 水産課長
7	Mr. Jonchin Nianguma ニャングマ	Papua New Guinea パプア・ニューギニア	30	Provincial Fisheries Officer, Dept. of East Sepik, PNG. 東セピック州政府 水産技官
8	Mr. Gualberto Yu Alcobor アルコベル	Philippines フィリピン	30	Agricultural Production Technologist, Leyte Provincial Office, Region 8, Dept. of Agriculture. 農業省 第8地区事務所 農業普及専門官
9	Mr. Navin Kuantanom ナウイン	Thailand タイ	39	Senior Officer, Fisheries Department, Ministry of Agriculture and Cooperative. 農業協同組合省 水産局 漁業開発技官
10	Mr. Badru Lugolobi バドゥル	Uganda ウガンダ	33	Fish Technologist & Chairman, Lake Katwe Fisheries Co-operative Society. カトウェ湖 漁業協同組合 技術参事

③ 漁具漁法学コース：平成3年1月～3月

No	NAME 氏名	NATIONALITY 国名	AGE 年齢	OCCUPATION 職業
1	Mr. MD. Rafiqul Islam ラフィック	Bangladesh バングラデシュ	31	Trawl Master R/V Anusandhan, Marine Fisheries Survey, Management & Development Project, Ministry of Fisheries & Live Stock 水産省 漁業調査経費開発プロジェクトトロール船漁撈長
2	Mr. Glaucio Concalves Tingo ティアゴ	Brazil ブラジル	28	Fisheries Institute, Secretary of Agriculture & Supply of Sao Paulo State サンパウロ州農政局 水産研究所 海洋生物研究員
3	Ms. Gloria Maria Vargas グロリア	Colombia コロンビア	30	Division of Forest & Fishing Development, National Planning Department 国家計画庁 林業水産局 漁業政策計画課係長
4	Mr. Suharyanto アント	Indonesia インドネシア	29	Chief Officer of Fisheries Training Vessel, Fisheries Education & Training Institute 国立水産教育訓練所 一等航海士・漁具漁法学講師
5	Mr. Ali Waheed ワヒード	Maldives モルディヴ	30	Project Officer, Ministry of Fisheries & Agriculture 漁業農業省 漁具研究調査担当
6	Mr. Bernardo Domingo Saravia Torres ベルナルド	Peru ペルー	37	Assistant Professional, Institute of Sea of Peru ペルー国立海洋研究所 研究員 (海洋漁業調査)
7	Mr. Manuel Jorge de Carvalho ジョージ	Sao Tome & Principe サントメ・プリンシペ	31	Technician of Industrial Fisheries, Artisanal Fisheries Project. 州漁業振興プロジェクト 漁業学技術
8	Mr. Francis Tofuskalo フランシス	Solomon Is. ソロモン	22	Assistant Fisheries Officer, Fisheries Division Ministry of Natural Resources 天然資源省 水産局 漁業指導官 (漁具漁法学改良)

④ 養殖一般コース：平成3年1月～6月

No.	NAME 氏名	NATIONALITY 国名	AGE 年齢	OCCUPATION 職業
1	Mr. <u>Abdul Shaheed Abdul Wahab Ali Hasan Al Baqal</u> アブドゥル	Bahrain バハレーン	23	Fisheries Technician, Directorate of Fisheries, Ministry of Commerce and Agriculture 農・商務省 水産局 水産技師
2	Ms. <u>Patricia del Rosario Mora Salas</u> パチィ	Chile チリ	26	Instructor, Microbiology Unit, Faculty of Biology, Pontificia Universidad Católica de Chile チリ・カトリック司教大学 生物学部 微生物学講師
3	Ms. <u>Ana Patricia Serna Pulido</u> パトリシア	Colombia コロンビア	31	Chief of Stocking and Research Department, Agrosoledad S.A. アグロソリダ株式会社 種苗生産・研究部長
4	Mr. <u>Gamal Elsayed Abdelfatah Elmesiry</u> ガマール	Egypt エジプト	27	Researcher Assistant, National Institute of Oceanography and Fisheries 国立海洋水産研究所 研究員補佐
5	Mr. <u>Luis Morales</u> モラレス	Honduras ホンデュラス	31	Biologist I, Fishery Department, General Direction of Renewable Natural Resources, Ministry of Natural Resources 天然資源省 天然資源総局 水産部 技師
6	Mr. <u>Khodari Mohammed</u> モハメッド	Morocco モロッコ	35	Engineer, Head Department, National Hydrobiological and Fish Culture Center, Ministry of Agriculture 農業省 国立水族生物学・養殖センター 管理課 技師
7	Mr. <u>Muhammad Ismail</u> イスマイル	Pakistan パキスタン	33	Assistant Director, Fisheries Jhelum, Fisheries Department, Government of the Punjab パンジャブ州政府 水産局 ジェールム水産支局 局長補佐
8	Mr. <u>Reinaldo Morales Rodriguez</u> レイナルド	Panama パナマ	31	Chief of Research Department, National Directorate of Aquaculture, Ministry of Agriculture Development 農牧開発省 養殖局 調査研究部長
9	Ms. <u>Milagro Coromoto Daza</u> ミラグロ	Venezuela ヴェネズエラ	31	Researcher I, Fundación La Salle de Ciencias Naturales ラ・サージュ自然科学研究基金 水産養殖研究員

⑤ 小型漁船の船体・機関保守コース：平成3年1月～6月

No	NAME 氏名	NATIONALITY 国名	AGE 年齢	OCCUPATION 職歴
1	Mr. <u>Ali Ghuloom Bador Ghuloom</u> アリ	Bahrain バハレーン	41	Fleet Supervisor, Fishing Project Ministry of Commerce and Agriculture. 商業農業省 漁船保全監督官
2	Mr. <u>Deogracias Guadamasi Bokara</u> ボカラ	Equatorial Guinea 赤道ギニア	26	Fisheries Officer, Ministry of Agriculture, Live-Stock, Fisheries and Forestry-Malabo 農業牧畜水産森林省 水産局 職員
3	Mr. <u>Peter Opiti Cham</u> ピーター	Ethiopia エチオピア	39	Engine Repair and Maintenance Department head Ministry of Agriculture, Fisheries Department. 農業省 水産局 機関修理主任
4	Mr. <u>Timoci Rabuli</u> ティモシ	Fiji フィジー	44	Boat Building Supervisor, Ministry of Primary Industries. 一次産業省 漁船建造監督官
5	Mr. <u>Harold A Nicolls</u> ハロルド	Gambia ガンビア	36	Fisheries Mechanic, Fisheries Department, Ministry of Water Resources and Environment 水資源環境省 水産局 機関担当技師
6	Mr. <u>Kimson M. Tom</u> キムソン	Micronesia ミクロネシア	33	Captain of Small Fishing Boat, Economic Development Authority. 経済開発公社 小型漁船 船長
7	Mr. <u>Edward Levy Wilson</u> エドワード	Nicaragua ニカラグア	28	Mechanic, Nicaraguan Institute of Fishery ニカラグア漁業研究所 機関技師
8	Mr. <u>Theo Numora</u> チオ	Papua New Guinea パプア・ニューギニア	32	Maintenance of Fishing Boats Operation Manager, West New Britain Fishing Authority, Department of Fisheries and Marine Resources 西ニューブリテン州 水産局 漁船運航主任
9	Mr. <u>Carlos Benigno Banites Esteves</u> カルロス	Peru ペルー	26	Instructor, Ministry of Fishery PAITA Fisheries Training Centre. 水産省 パイタ漁業訓練センター 機関担当講師
10	Mr. <u>Joao Gomes Pessoa Lima</u> ゴメス	Sao Tome and Principe サントメ・プリンシペ	29	Engineer, Direction of Fisheries, Ministry of Agriculture and Fisheries. Artisanal Fishing Project 農業省 水産局 機関担当技師

2. 平成2年度個別研修員受入れ実績

神奈川県水産研修センター

№	研修科目	氏名(区分)	国籍	年齢	現職	センター受入期間	別科	備考
1	センター運営管理	Mr. Apustin C Cisneros (E)	ペルー	36	ハイタ漁業開発センター 部長補佐	2. 4. 4~2. 4. 5	JICA	C/P プロ技協
2	水産管理	Mr. Munesh Mumbodh (D)	モーリシャス	40	国産漁業天然資源者 研究員	2. 4. 6	JICA	個別一般
3	漁業開発	Mr. Haji S B Abu Bakar (E)	マレーシア	44	ヤラゴル州 漁業部長	2. 4. 10	JICA	個別一般
4	水産管理	Mr. Antonio Peres S (E)	メキシコ	34	シナロア州 養殖部長	2. 4. 10	JICA	C/P 小粒専門家
5	沿岸漁業	Mr. Pedro Roma Ramos (A)	カーボベルタ	34	バルパイス州漁業技術員	2. 4. 19~2. 12. 13	JICA	C/P 高度沿岸漁業合資
6	センター施設見学	Mr. Sam Van Kessily (E)	リベリア	34	The News紙 編集長代理	2. 4. 19	外務省	外務省報道関係招待
7	エビ養殖	Mr. Fuad Mustafe Ismail (E)	ハイエメン	40	水産資源者 専務部長	2. 4. 20	JICA	C/P 食光専門家
8	船舶機関	Mr. Selyeman Abed (A)	エジプト	34	漁業公社 ヤムーク 第2技士	2. 4. 26~2. 7. 6	JICA	C/P 門前専門家
9	漁業管理	Mr. Ferid Yaakoubi (E)	モロッコ	33	国立水産生物資源研究所 研究員	2. 5. 1	JICA	個別一般
10	エビ養殖	Mr. Miguel J.R. Terrazas (E)	メキシコ	38	国産漁業資源促進研究所 職員	2. 5. 15	JICA	第18回日農交流計画
11	エビ養殖	Mr. Jorge A.M. Arzola (E)	メキシコ	34	海洋科学技術開発研究所 部長	2. 5. 15	JICA	第18回日農交流計画
12	海洋日食化	Mr. Milosav Georgijic (D)	ユーゴスラビア	41	科学技術大学 助手	2. 5. 28~2. 8. 18	JICA	個別一般
13	漁業・養殖	Mr. Jessim A. Al-Oesser (E)	バハレーン	37	国産資源者 漁業部長	2. 5. 31	JICA	津高職
14	漁業協同組合	Mr. Essa A. Husain E.A. (A)	バハレーン	30	国産資源者 漁業局 漁業技官	2. 7. 9~2. 12. 13	JICA	個別一般 漁協合資
15	漁業生産学	Mr. Ibrahim O. Mohamed (B)	エジプト	23	アスワンダム湖開発庁漁業管理センター	2. 7. 9~2. 12. 21	JICA	C/P 三次専門家
16	経済技術	Mr. Juma R. Mchalegamiye (A)	タンザニア	42	漁業公社 部長	2. 8. 10~2. 12. 14	JICA	C/P 船舶専門家
17	船舶機関	Mr. Abdeliam Marfouk (A)	モロッコ	50	国産資源者科学研究所 機関士	2. 8. 13~2. 9. 19	JICA	C/P 百野専門家
18	漁業技術	Mr. Simon R.C. Tume (A)	ペルー	34	ハイタ漁業開発センター 漁務主任	2. 8. 13~2. 12. 13	JICA	C/P プロ技協
19	漁業水産管理	Mr. Mouradi Nouredine (A)	モロッコ	33	アカチル漁業開発センター 漁務技官	2. 8. 14~2. 9. 19	JICA	C/P プロ技協
20	シェミレーション	Mr. Abdellhadi Lakhmour (A)	モロッコ	38	アカチル漁業開発センター 機関技官	2. 8. 14~2. 9. 6	JICA	C/P プロ技協
21	漁業調査分析	Mr. Joopoi Sengprasit (A)	タイ	36	クワン軍艦漁業研究所 研究員	2. 8. 17~2. 12. 13	JICA	C/P プロ技協
22	漁業管理方法	Mr. Wannakiet T. (A)	タイ	40	クワン軍艦漁業研究所 主任研究員	2. 8. 24~2. 11. 8	JICA	C/P プロ技協

No.	研修科目	氏名(区分)	国籍	学号	現職	センター受入期間	級別	備考
23	養蚕生産技術	Mrs. Retana Munpresit	タイ	33	ラオス畜産開発研究所 生物研究員	2. 8.24~2.12.13	JICA	C/P プロ技術
24-38	水産統計コース	Mr. Lifeng Gui 他14名	中国他12ヶ国	26	国庫協力開発局 他	2. 8.27	JICA	研1、集団特設
39	沿岸漁業技術	Mr. Filinto S Dalva	セントメ・プリンシペ	30	農業水産省水産局 沿岸漁業部長	2. 9. 4~2.11.27	JICA	C/P 畜産専門家 沿岸一部合流
40	水産加工	Mr. Angel R.C. Vicente	ペルー	36	水産加工センター 研究員	2. 9.17~2.12.14	JICA	C/P 第三回研修
41	漁業保守	Mr. Juan A. Saldana	ペルー	30	バイタ漁業訓練センター 機関技士	2. 9.17~2.12.14	JICA	C/P プロ技術
42	船舶電機	Mr. Juan M.B. Merino	ペルー	23	バイタ漁業訓練センター 電気技師	2. 9.17~2.12.14	JICA	C/P プロ技術
43	漁業管理	Mr. Mersah Gilbert	ベナン	46	水産局長	2.10. 6~2.10.19	JICA	C/P 集積
44	養蚕管理	Mr. Anwar A. Khan	イエメン	47	水産資源省 上設計師官	2.10.10~2.10.22	JICA	C/P 金光専門家
45	養蚕管理	Mr. Abdulla M. Abdan	イエメン	40	養蚕研究所センター 次長	2.10.10~2.10.22	JICA	C/P 金光専門家
46-58	センター開設実学	Mrs. Y. Nakasato 他13名	ブラジル	37	サンパウロ州公共事業省 技術企画官	2.10.18	JICA	筑農センター運営研修水コース
59-61	センター開設実学	Mr. Jopin Tari 他1名	グアスアツ	37	農業省 職員	2.10.23	外務省	外務省中堅指導者招聘
62	水産食品包装	Mr. Ten San Min	シンガポール	43	国立開発省 第一次生産部	2.11.11~2.12.22	JICA	国際機関SEAFDEC C/P
63-76	センター開設実学	Mrs. S. Chieppe 他13名	ブラジル	27	パラナ州農業普及公社 普及技師	2.11.14	JICA	筑農センター野菜生コース
77	水産管理	Mrs. Ligia E. R. Salazar	コロンビア	37	企画庁国際協力部 水資源担当	2.12.11~2.12.12	JICA	個別一設
78	漁業保守	Mr. Peter Opati Chemo	エチオピア	39	農水資源開発部 技術員	3. 1. 7~3. 6.24	JICA	国際機関 (FAO) 個別合流
79-85	エドモ農産技術	Mr. Samir E.A 他6名	バハレーン	28	海産物資源開発局 要員技師	3. 2. 9~3. 3.17	JICA	中国支部 集団コース

3. 地域別年度別研修員受入れ実績

91.3.31 神奈川県国際水産研修センター

地域名	年	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	合計	
ア	シ	7	14	12	15	8	15	14	12	11	12	9	9	6	8	16	10	15	12	22	25	16	25	24	23	13	10	13	11	10	9	6	405
オ	セ	7										1	1	2	2	4	1	4	4	4	4	4	4	9	4	8	3	7	6	7	6	77	
エ	フ	リ	カ	2	1	7	1	2	4	4	5	3	6	9	4	5	8	2	5	6	5	6	6	7	10	12	13	17	18	19	20	15	222
カ	近	東	・	ヨ	ー	ロ	ッ	パ	2	2	1	3	3	4	3	2	1	2	4	2	3	4	5	9	1	2	4	4	6	5	6	6	103
ク	ア	メ	リ	カ			4	3	4	3	10	9	5	5	6	3	9	10	18	11	13	15	16	15	20	14	15	13	14	14	17	266	
ケ	合	計	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	60	48	51	53	61	53	54	54	57	56	50	1,073	

普及/沿岸漁業漁法普及コース
 漁業/沿岸漁業漁法(実践)コース
 漁業/沿岸漁業漁法(理論)コース
 漁協/漁業協同組合コース
 果樹/養殖一般コース
 船舶/小型船舶の船体・機関保守コース
 漁技/沿岸漁業技術コース
 漁学/漁業漁法学コース

(注) センターを三浦市から現在の
 横浜買部町に移転
 (1974年4月)
 国際協力事業団設立
 (1974年8月)

4. コース別年度別研修員受入れ実績

(注) ↓

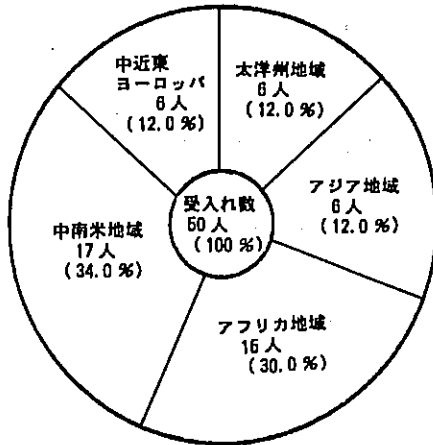
コース名	年	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	合計
沿岸漁業漁法普及	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	21	17	20	20															359
沿岸漁業漁法実践																			18	18	18	19	18	17	17	18	16	16			193	
沿岸漁業漁法理論																		15	13	14	15	8	13	11	10	8	10	11	10		138	
漁業協同組合												9	10	10	9	9	9	8	10	10	12	9	10	11	9	9	10	10	10	10	164	
養殖一般																	5	7	10	8	8	10	11	8	9	10	8	13	11	9	127	
小型船舶機関保守																															71	
沿岸漁業技術																																13
漁業漁法学																																8
合計	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	21	17	20	20	34	51	60	48	51	53	61	53	54	54	57	56	50	1,073	

(参考) 個別コース研修員受入れ実績

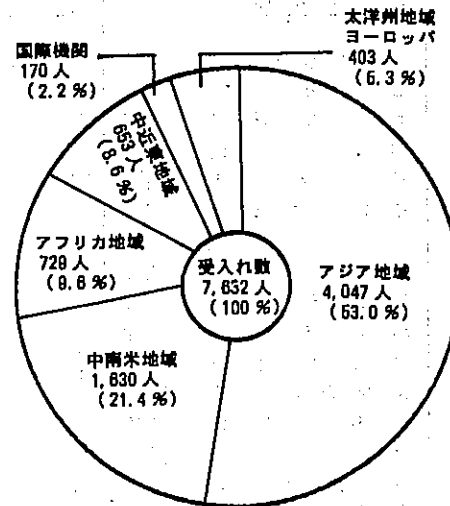
カテゴリー	年度	89	90	合計
個別研修(含業団合流)		10(3)	24(4)	34
一日研修(含施設見学)		5	51	56
集団コース導入研修		8	7	15
プロトコール		13	3	16
合計		36	85	121

6. 地域別研修員受入れ状況

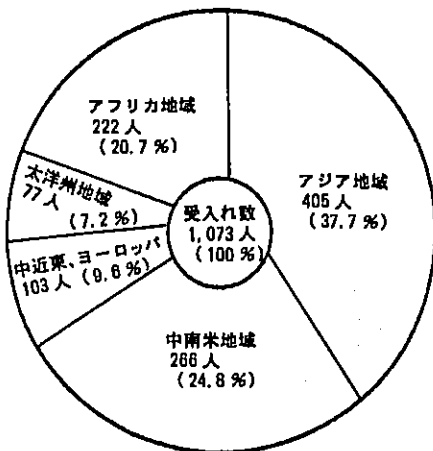
① 平成2年度（神奈川センター）



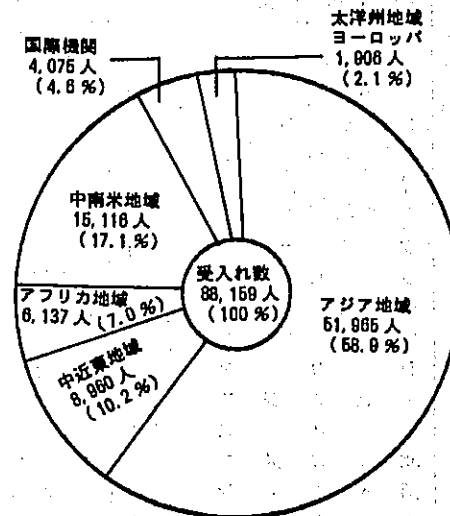
② 平成元年度（JICA全体、新規のみ）



③ 昭和36年度～平成2年度（神奈川センター）

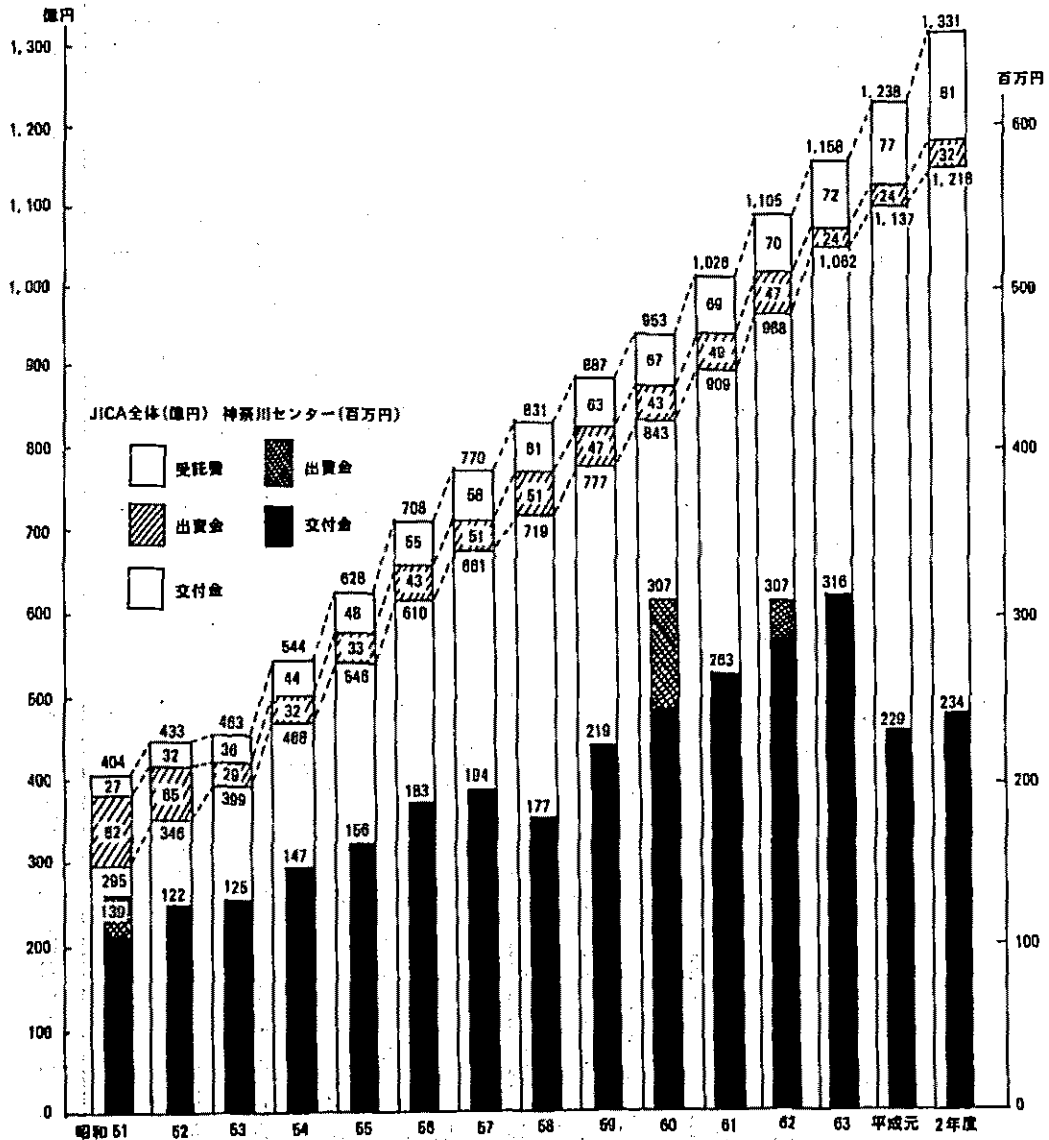


④ 昭和29年度～平成元年度（JICA全体）



参考資料

1. 国際協力事業団認可予算の推移



注：四捨五入の関係上合計に不一致あり。

2. わが国のODA事業予算（政府全体）

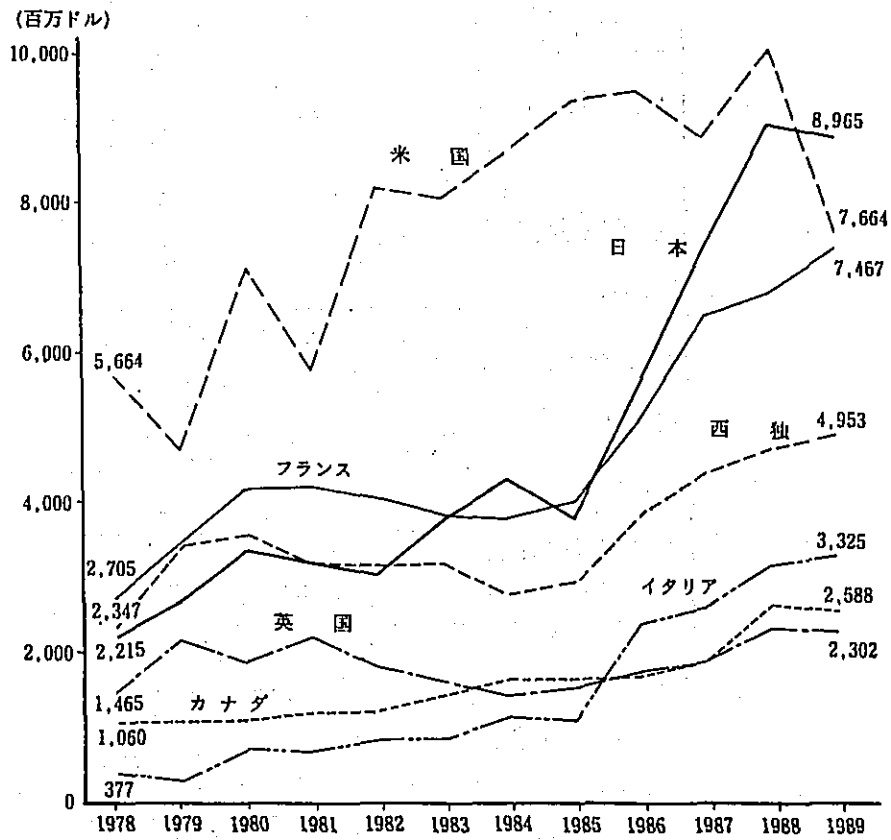
(単位：億円、%)

区 分	1987年度			1988年度			1989年度			1990年度		
	予算額	伸率	構成比	予算額	伸率	構成比	予算額	伸率	構成比	予算額	伸率	構成比
I 贈与	6,647	3.2	47.5	7,109	6.9	47.4	7,107	△ 0.0	46.9	7,735	8.8	48.4
1. 二国間贈与	3,656	6.8		3,937	7.7		4,261	8.2		4,467	4.8	
(1) 経済開発等援助	1,340	8.1		1,471	9.8		1,596	8.5		1,621	1.6	
(2) 食糧援助等	545	△10.6		459	△15.7		428	△ 6.8		412	△ 3.7	
(3) 技術協力	1,771	12.5		2,007	13.3		2,237	11.5		2,434	8.8	
2. 国際機関への出資・拠出	2,991	△ 0.9		3,172	6.0		2,846	△10.3		3,269	14.8	
(1) 国連等諸機関	535	△12.8		504	△ 5.8		524	4.1		558	6.3	
(2) 国際開発金融機関	2,457	2.1		2,668	8.6		2,322	△13.0		2,711	16.8	
II 借 款	7,356	△ 6.7	52.5	7,897	7.3	52.6	8,045	1.9	53.1	8,260	2.7	51.6
(1) 海外経済協力基金	6,816	△ 6.7		7,347	7.8		7,530	2.5		7,781	3.3	
(2) 日本輸出入銀行	20	△75.0		20	0.0		20	0.0		20	0.0	
(3) その他	520	4.3		529	1.9		496	△ 6.4		459	△ 7.5	
III 小計（事業規模）	14,003	△ 2.2	100.0	15,006	7.2	100.0	15,153	1.0	100.0	15,995	5.6	100.0
IV 回収金	△ 1,605			△ 1,519			△ 1,455			△ 1,502		
合 計	12,399	△ 4.1		13,487	8.8		13,698	1.6		14,494	5.8	

(出所：我が国の政府開発援助 上巻)

注：四捨五入の関係上合計に不一致あり。

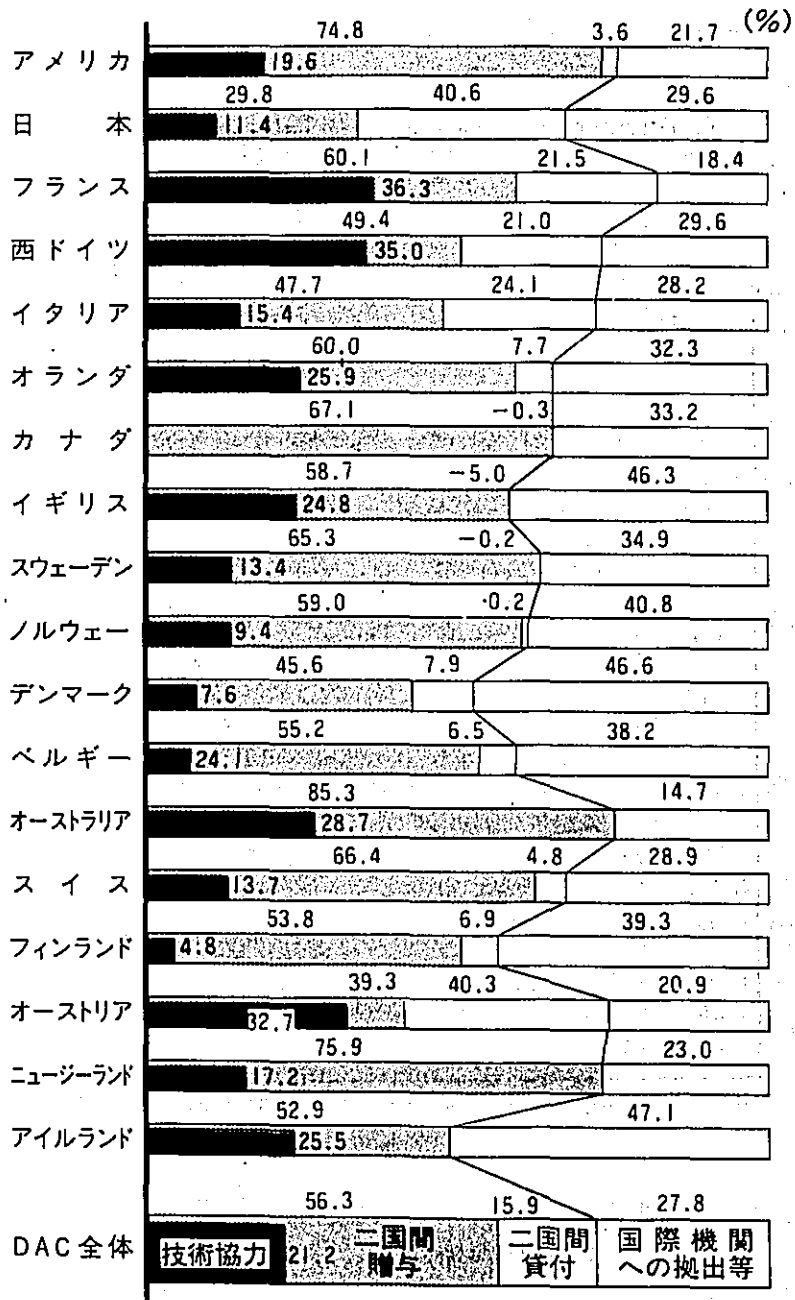
3. DAC主要国のODA実績の推移（支出純額ベース）



出典：DAC資料

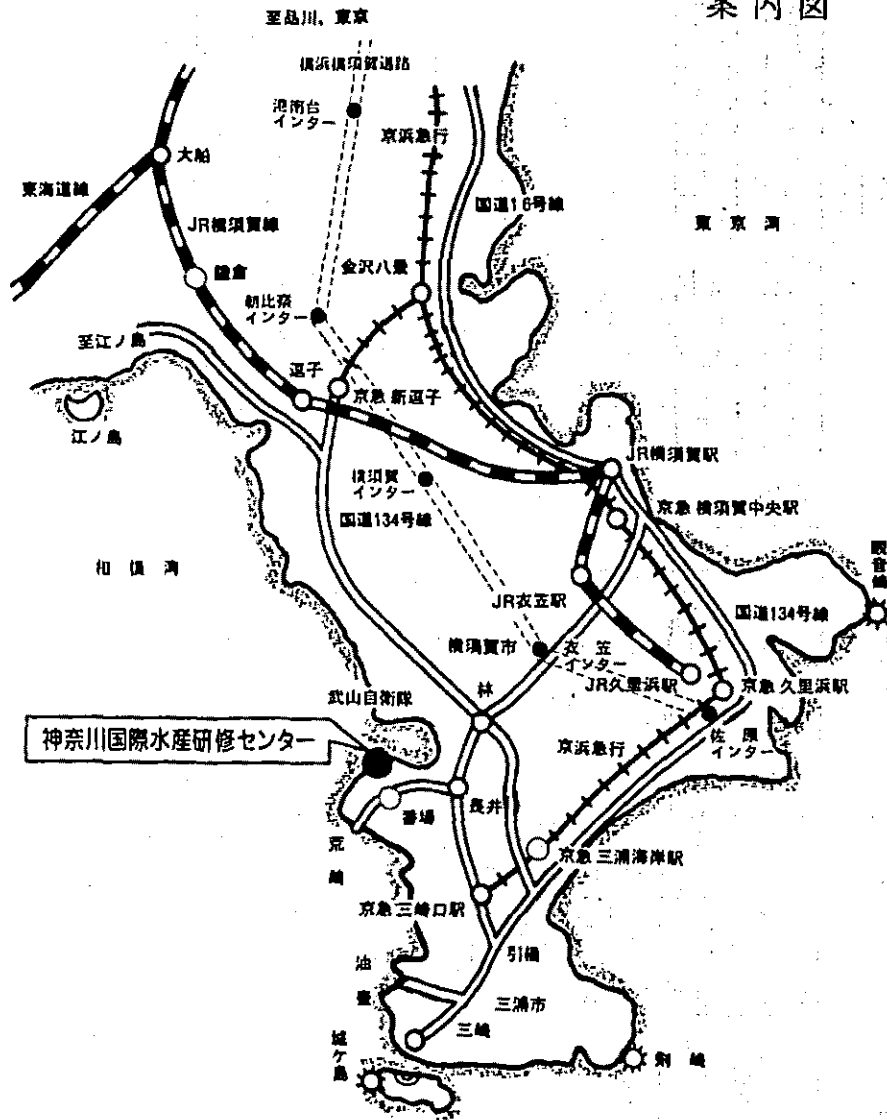
注：1989年実績は暫定値。

4. 形態別内訳と技術協力の比率（1987）



(注) カナダ、イギリス、スウェーデンについては返済額が貸付額を上回っているため、二国間貸付額が総計でマイナスとなる。

神奈川県国際水産研修センター 案内図



京浜急行 三崎口駅 (終点) 下車

タクシーにて
10分
長井魚市場
隣り

バス荒崎行
番場
下車

JICA